

## Golf

## 『自己責任の武者修行の場』としてのゴルフ



ビジネス・ブレイン 会長

## 大和 修

私は矢崎総業と広告代理店を経て、1991年に経営コンサルタントとして独立。これまで400社以上の経営改善などを手掛けてきた。また、2012年に福岡県内の中小企業経営者の異業種交流会「未来経営事業協同組合」を立ち上げ、販路開拓やビジネスマッチングなどを進めているが、ゴルフには、こうしたビジネスの現場と相通じるものがある、と思う。私にとっては、どちらも「自己責任の武者修行の場」なのだ。実際のプレーでは多くの方々とご一緒するが、その中での一打一打はあくまで自分自身との戦い。出来不出来も全て自分自身に返ってくるもので、他人のせいではない。同時に、それらは、自らの精神力や技能を磨くためのトレーニングでもある。心身のコンディションに好・不調の波があれば運に左右されることもある。この点でもビジネスに似通っている。

そこで、私の心の中には、両親から伝えられた「大和家の教え」（全12訓、自著『企業経営と家庭経営』梓書院刊より）がある。そのうち、二つの訓をここで引く。

「他人の成績をうらやんだりねたんだりしない。自分の努力をして自分の目標にしっかり向かっていくこと」「いつも笑顔でいる。悲しいことや面白くないことがあっても、周りの人には笑顔で接する大きな心を持つこと」

他人の成果が気になったり、気分がふさぎ込むとき、これらを思い起こす。これらは仕事と生活を通じ、いつも心掛けているが、ゴルフについても当てはまると思う。

## Radarレーダー

## 今月の映画「迷宮カフェ」

3月21日(土)より福岡中洲大洋にて公開

命の尊厳を踏みにじるような事件が相次いでいる。「人を殺してみたかった」という猟奇的な思考をエスカレートさせ、友人をたたき殺した少女。日本人ジャーナリストらを残忍な手口で殺害したテロ集団。いずれも理解に苦しむが、少なくともその多くは、自分自身の「弱さ」から目を背け、社会に背を向けて、残虐行為に走っているのではないか。

物語は、若く美しい女性主人（関めぐみ）が営むカフェに集う自殺願望を抱えた複数の登場人物らが、女主人に骨髄移植を持ち掛けられ、カフェに居着いて適合通知が来るのを待つという設定の中で繰り広げられる。言わば骨髄移植の啓発映画だが、それにとどまらず、他人からするとときに滑稽にも思える動機で自殺を思い詰める人々の姿を通じて、身勝手に弱い人間の姿が赤裸々に描かれる。見どころは、彼らが心の「迷宮」から抜け出していく姿。額が広いことを苦にして自殺を図ろうとしていた若い女性（市川由衣）が、連続殺人事件を引き起こした若い男（藤原馨）と獄中結婚し、彼に罪滅ぼしを迫りながらも救いをもたらす場面や、謎めいた女主人が少女時代の心の傷跡と対峙する終盤が印象的だ。KADOKAWA 配給。1時間52分。



©2015/ワンワークス